

2004.12.19

連画活動報告（土棚小学校）

Rep.河崎 睦 土棚小学校

・今年度のセッション参加の子どもたちの様子

児童を参加させるのは初めての体験だった。調査の方をやっていて、ある程度の内容はわかっていた。「高学年を担当したらやってみよう」と常々思っていた。

現在の子どもたちは、絵やイラストを描くのが好きな子が非常に多い。暇さえあれば『何か描いている状況』である。「まだ、黒板を写しているのかなあ??」と思っていると、ノートにびっしりとキャラが描いてある。

おそらく『ハマる』だろうと思っていた。紙ベースのカンプリアンから始まって、終止『熱い』興奮状態でやっていた。「落ち着いてじっくりと」などということはあまりなかった。

・セッションの中でこれは（いい面とよくない面）と思う子どもたちの表現

自分自身としては、「表現というものは『利己的』あってかまわない」と思っているのに、「いい表現よくない表現」というものはないと思っている。しかし、授業参観で連画を見せたところ、ある保護者から、「確かに楽しそうだけれども、こんな絵をwebに公開してもいいのか?」という『怪訝な反応』というものがあつた。

・デジタル表現とアナログ表現の違い、デジタル表現のよさ

やり直しが効くというけれど、うちのクラスでは、やり直しなどせずに、爆発的に作品をアップしていった。いわゆる『新奇性』がもたらすものだと思う。この子どもたちの担任暦をみると、かなり「保守的な教師」が多い。『デジタルだから触発した』とばかりは言えないところだろうと考えている。